

新時代を迎えたネパール、新たな友好親善のきずなを

2026年3月17日

ホームページ ”jaljalahealth.org 日本の皆様へ “7年ぶりの更新

2006年、医学生時代のネパール訪問から38年ぶりにネパールを訪問し、“ネパールへき地医療“を第二の人生の課題としてから20年が経ちました。十数年前にその活動を日本の皆様に報告するために立ち上げたこのホームページですが、この7年ほど更新できていませんでした。

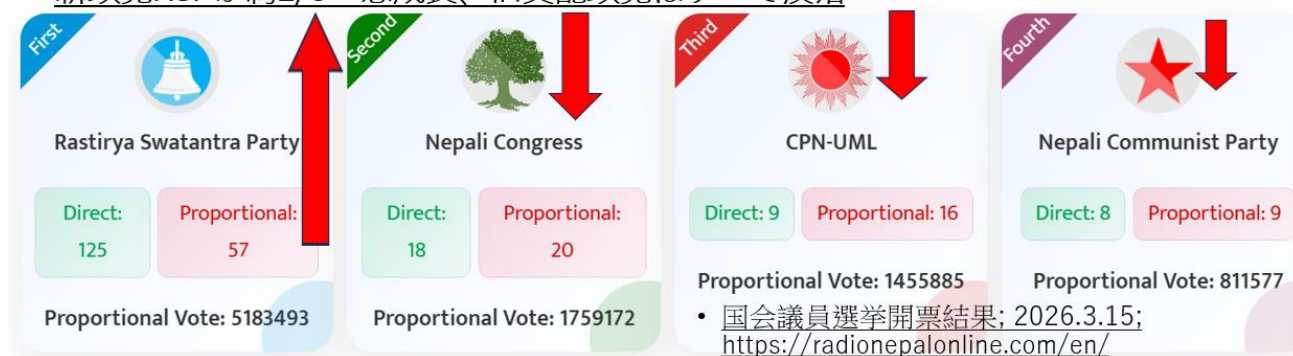
昨年の”9月の嵐“以降、ネパールは新しい時代を迎えつつあり、これに呼応すべく、日本からの”へき地医療支援活動“も新展開が求められています。昨年末に始まった日本の支援者の皆様の新しい動きに応えるためにも、このホームページを充実したものにしなければ、と考えています。よろしくお願いいたします。

2026年3月5日のネパール国会議員選挙、予想を超える大変動の開票結果

今回の臨時選挙は、昨年9月、国会議事堂、連邦政府の官庁、警察、裁判所など政府の重要機関の多くが炎に包まれるという青年たちの実力行動により崩壊した旧政府に変わる新政府を憲法で定められた手続きを経て作るという重要な選挙でした。

その結果は、Z世代運動の後ろ盾となってきた新政党、2022年に発足したばかりのRSP (Rastriya Swatantra Party 国民独立党) の地滑り的大勝利でした。つもりに積もった青年たちの怒りの爆発に、多くの国民が共感したのです。

新政党RSPが約2/3へ急成長、旧支配政党はすべて没落



“9月の嵐”の担い手・Z世代運動の指導者たち自身も驚くこの選挙結果は、耐えがたいネパールの現状への国民全体の大きな怒りと変革への強い希望の表れでした。

ネパールは今、若い世代が主導する、“新たな変革の時代”をむかえています。

ささやかながら、へき地医療への貢献を通して、ネパールと日本の友好親善を目指してきた私の活動も、今この新しい時代の要請に応える飛躍が求められています。

昨年末以降の日本の支援者の皆様の新しい試み。これまでの狭い枠を超え、幅広く日本の皆様に支援

を呼び掛けるための支援組織・事務局立ち上げの試みが、この新しい時代の要請にこたえて、着実に発展することを願っています。

昨年2025年3月9日、19人の若者たちが射殺された現場を訪問



3月9日、国会議事堂の正門前、私がこの写真を撮っていると一人の青年が話しかけてくれました。「自分もこの時ここにおいて、首の後ろを銃弾で負傷した。あと5センチ上だと命がなかった。昨日、3月8日は、昨年9月8日、ここで19人の若者たちが命を失ってから6か月目。ここで追悼集会が開かれた」と。



19歳の女子学生や13歳の生徒も射殺された。

彼の首にも銃弾が

いま、この門は、若者たちが命をかけた夢・“新しいネパール”への旅立ちの門・その“長い旅路”の出発点となっています。

わたしもこの若者たちと心をつなげて、この旅路をともに歩み続けたいと思っています。

2025年、“9月の嵐” 若者たちの表情

-----2026年3月5日の選挙結果の背景-----



当初平和的に行われていた政治の金権腐敗に対する抗議行動でしたが、政府の過剰警備により多数の死者が出たことを契機に青年・市民の怒りは爆発。



この国会議事堂など「金権腐敗の巣窟」とみなされた政府中枢機関がほぼすべて炎上しました。

炎上した国会議事堂をバックに記念写真を撮る青年たちの表情は底抜けに明るい。この表情の明るさが、今回の選挙結果につながっていると感じます。



この写真は、国会炎上から1週間後、タバンの村役場で開かれた医療関係者の会合での私の提案スライドのまとめです。

「変えよう、腐敗したお金中心の医療から清潔な住民中心の医療へ」「そのモデルをタバンに」。

バックの写真は、3月9日、タバンの新病院の上の道を通って村役場へ向かう生徒たちの抗議デモ。前日に射殺された同世代の生徒の死を悼み、抗議する生徒たちの表情は真剣です。

“ネパールへき地医療変革のモデル”を目指して —— タバン村新病院の現状と課題

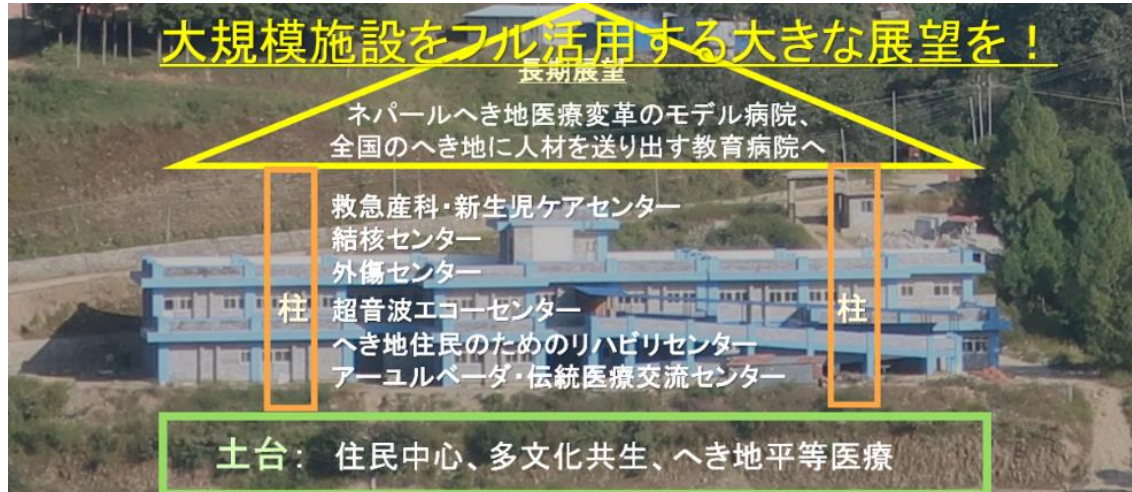
2013年、日本の皆様からの支援によりタバン村初めての病院が建設されてから12年、2025年、政府の支援を得て本格的な病院の建物がほぼ完成。昨年4月に旧病院からの移転を開始しました。



建

物だけは立派になりましたが、移転開始後1年近くたって、医長機器、設備は旧病院から運んできたものが大部分で、追加はほとんどなく、スタッフも数人増員されただけの現状です。

この政府による大規模な建物への投資をフルに活用できる将来展望について、次の写真の内容を提案し、今協議が進行中です。



カトマンズのニックサイモン事務所、JATA/JANTRA 事務所を訪問し協力依頼

永住ビザの3年目の更新のためにカトマンズに出てきた機会を利用して、新病院の将来展望実現のために2つのNGO事務所を訪問、協力を要請しました。

ニックサイモン事務所訪問、3月9日

ニックサイモン君の父親・ジムサイモン氏はかつてベトナム戦争に反対してレッドパージされたという経歴を持つアメリカの数学者です。彼は独自の数学理論を応用して事業に成功し大資産家となったのち、ネパールでボランティア活動に従事し、ネパールへき地医療変革のために医師を目指していた息子の事故死をきっかけにNGOニックサイモン(Nick Simons Institute)を立ち上げました。20年に及ぶこのNGOの活動は、ネパール政府との緊密な連携のもとに展開され、母子保健を中心にへき地の医療水準の向上に大きな役割を果たしてきました。



モハメッドカシム医師は以前、“国境なき医師団”にも所属して永年へき地医療にかかわってきた専門家。今後の協力を約束しました。

アルパナ医師は昨年5月タバンを調査のため訪問、その結果タバンでの



アルパナ医師(調査責任者)
モハメッドカシム医師
(支援チーム派遣の責任者) 私

バルマンダール氏

これまでの医療改革の努力が高く評価され、数か月後よりニックサイモンの支援チームが派遣されることがほぼ決定されました。今回の訪問では、ニックサイモンの中心テーマ・帝王切開手術など母子保健と、私が目指している外傷センター、結核センターをいかに組み合わせるのかなどを相談しました。

結核対策 NGO、JATA/JANTRA 事務所訪問、3月8日。



60年前の初めてのネパール訪問で、岩村昇先生の結核キャラバンに同行したことは、私のその後のネパールへき地医療の原点です。その後60年を経ていまだにへき地には結核が蔓延しており、これを撲滅することは、私の人生最後の宿題と考えています。

日本結核予防会 JATA から派遣された下内昭先生、ネパールサイドの NGO /JANTRA の皆さんとの協力によりネパールへき地の結核対策のモデル

ル・“結核のないタバン”を実現したいと考えています。

長期間休眠状態にあったこのホームページですが、今後は随時更新し、最新の情報を届けたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

2026年3月17日、カトマンズよりタバンへ戻る出発の朝。

石田龍吉記